

私見
卓見

通信制高校を進路の選択肢に

第一学院高校3年 柴原 香苗

私は18歳。来春、3年間の高校生活を終える。2年前の春に全日制高校に入学したものの、心の病がきっかけで不登校になった。学校へ行けないことに危機感を感じて通信制高校に転入し、早くも10カ月がたった。

通信制高校への進学や転入学を考えている人の中には、世間体が気になるという人も多いだろう。他者の目というものは自分の選択に迷いと不安をもたらす要素の一つだ。しかし、多様性が叫ばれている昨今、通信制高校を取り巻く環境は大きく変化している。

ここでは、私の思う通信制高校の長所について訴えたい。通信制高校は、全日制高校のようにカリキュラムに沿って学習する「学年制」ではなく、大学のように自分

で取りたい科目を選んで履修する「単位制」が主流である。毎日授業があるわけではなく、学ぶ内容も場所も全て自分で決めることができるのだ。

与えられるだけではない主体的な学びからは、計画性や自主性、スケジュールを管理する力など、社会で生きていくためのスキルをも身につけることができる。これが、通信制高校で学ぶ上で一番の長所であると私は考える。

また、通信制高校には様々な生徒が在籍しているため、一人一人の特性やニーズにあった勉強法・受験の選抜方式などを提案してもらえる。私自身、全日制高校にいたときは全く視野になかったが、面接や小論文で可否を判断する「総合型選抜」を利用して無事に

大学受験を終えたばかりだ。少子化で高校が減っていく中でも、通信制高校は年々、学校や生徒の数が増加傾向にある。文部科学省の調査によると、2020年度の全国の高校生の数は約330万人。その中で通信制に通っているのは約20万人。つまり、16人に1人は通信制高校に通っているという計算になる。

与えられた課題をただ淡々とこなすのではなく、自分で課題を発見し、答えを模索しながら学んでいくという通信制高校のあり方が時代が追い付いてきたといえるかもしれない。高校選びは人生を左右する大きな選択だ。今はまだ少数派かもしれないが、進路に通信制高校を選ぶことが当たり前になる未来はそう遠くないだろう。

当欄は投稿や寄稿を通じて読者の参考になる
意見を紹介いたします。〒100-8066東京都
千代田区大手町1-3-7日本経済新聞社東京
本社「私見卓見」係または kaisetsu@nex.nik

Kei.comまで。原則1000字程度。住所、氏
名、年齢、職業、電話番号を明記。添付ファイ
ルはご遠慮下さい。趣旨は変えずに手を加える
ことがあります。電子版にも掲載します。